

時の針

発行 窓会 仁
 校長 梅沢 山410
 事務局 児玉町八幡山
 県立 児玉高 校内



建設中の新体育館

ごあいさつ

同窓会長 梅沢 仁

新秋の候会員の皆様には、ますますお元気にお過ごしのこととお喜び申し上げます。

平素本会発展のために、格別のご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。誠にありがとうございます。

さて、平成3年度同窓会総会が、4月28日母校において開催され、多数の会員の出席を得、満場一致にて原案通り可決承認されました。大正11年創立以来数えて69年、会員は一六、七六三名となり、夫々の方々が広く各界で活躍し、社会に貢献していることは本会の誇りであり、ご同慶のいたりであります。そして日頃、本会事業の推進についてご尽力くださる役員諸氏の年余にわたる真摯なご努力に甚大なる謝意を表するとともに、今後のご活躍をご期待申し上げます。次第であります。

さてこの度、本会発展のために多大なご尽力を賜りました杉田治正校長先生が県立坂戸高校長としてご栄転になられ、後任に島田道

郎先生が新校長としてご赴任なさいました。新旧校長先生には今後ともご指導ご支援をよろしくお願ひいたしました。又ここで本会発展と母校隆昌のため永年にわたり多大なるご貢献を賜りました役員の方々が任期によりご退任なさいました。ご活躍なされたご功績に対し、心から感謝の意を表明させていただきます。ところで母校はなつかしいものです。いつになってもなつかしさと親しさをもって母校に集まるといふことは、何物にもかえがたい喜びあり誇りできえあります。もちろんこれは皆様が母校を愛される念の深いことと、お互いの親しみの情がこまやかなことにもよるのでありますが、もう一つ大きなものがあるからだと思います。それは、皆様をここに引きつける「母校の力」だと思えます。母校をよりどころとする「母校の力」の強いことでもあります。

この度、本会では母校創立70周年記念事業の一環として会員名簿を発刊いたしました。良いものができたこと好評をいただきました。又母校では同じく記念事業の一環として新体育館の建設が始まりました。後輩達少年少女の躍動する美しさが大いに期待されます。この時、児玉高校では地域に愛され期待される学校、一生懸命な特徴ある学校に進展する方策として体育コースが平成4年度から

開設されます。本会としてはこの学校、先生方の熱意にこたえて精いっぱい応援をして、絶対に成功させたいと考えているところであります。70周年記念事業の柱に同窓会館の建設を計画中であります。会員の親睦の場として、又後輩達の教場として使用出来る立派なものを考えたいと思えます。会員皆様の絶大なるご支援をお願いする次第であります。

終りに同窓生皆様のご健勝とご繁栄をそして同窓会のみならずのご発展をご祈念申し上げます。といたします。

「平成2年度」事業報告

4月22日

総会、於東京帝国劇場
 地下浜田屋(106名バス
 2台)観劇「マイフェア
 アレディ」50名・都内
 遊覧56名

10月1日

『時の針』第6号及び
 テレビホンカードの発行
 親睦旅行 於大宮及び
 川越市内散策(37名)
 同窓会講演会 於母校
 講師 岡泉 淳氏
 (高校第37回卒業)

11月8日

新年会 於本庄埼玉グ
 ランドホテル(100名)
 入会式 於母校 会長
 ほか役員出席

2月9日

3月7日

8日

母校の個性を

伸ばすために

学校長

島田道郎

皆さん今日は、私は本年四月杉田治正校長さんの後任として着任いたしました。

着任後まもなく梅沢会長さんから老万六千余名の同窓会員が、百名近い役員を中心として結ばれ、同窓会の発展と母校の隆盛のために多大なるご協力をしてくれて、このことをお聞きし、深く感銘すると共に感謝の気持ちでいっぱいでありませう。

ご承知の通り、本校は平成四年に七十周年を迎えます。このすばらしい伝統の上に激しい時代の変化に応じたニーズに添えてゆかねばなりません。岩田明校長さん以来の懸案である地域にねぎした特色ある学校づくりを行なわなければならぬと念じております。お陰様で、体育コースの設置や体育館の改築が実現することになりました。平成四年度からの体育コースの設置は、スポーツの好きな中学生が本校に入学後、運動部で活躍しながら学び体育系の大学や文科系の大学に進学したり、就職し

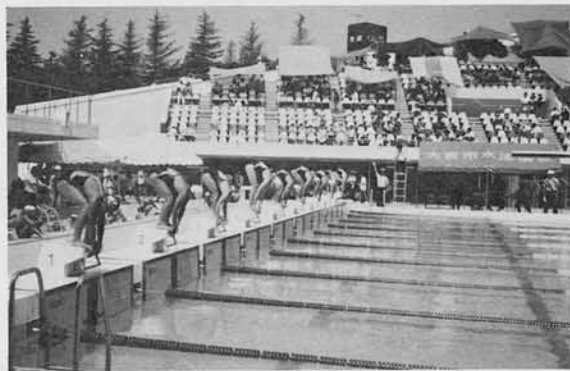
たりするためのコースです。

この設置は、本校が昭和四十八年にサッカーでインターハイ優勝した頃のように、文武両道における活気の再現を期待しているものであり、同窓会の提唱している本校ルネサンス運動の具体化であること信じております。こうした特色ある教育活動を行うためには、体育館の改築、雨天練習場、トレーニングセンターなどの施設が必要になって来るわけですが、幸い創立七十周年を目前にした本年、予てからの陳情の成果が実って、体育館の改築が認められ、現在、旧体育館を取りこわし、改築工事中であります。平成四年二月末までに竣工の予定です。

P.T.A. 後援会・同窓会・学校の四団体で構成する七十周年準備委員会では、体育館の内部施設・設備を七十周年記念事業の一環として充実することにしてあります。更に、同準備委員会は、すでに五回の会合を開き、七十周年記念について色々な検討を重ねておりますが、現時点までの話し合いでは、父母負担の軽減という県の方針もあるの、同窓会が中心になり同窓会館の建設を計画する方向に進んでおります。このことの実現は大変意義深いことで、ぜひ実現することを願っております。本校ルネサンス運動の開花結実のために同窓会の皆様の変わらぬご支援とご協力をお願いいたします。

「部活紹介」

水泳部



水泳部は昭和58年、水泳同好会として発足し、平成元年度今までの活動が認められて水泳部に昇格しました。今年で創部9年目を迎えます。

四名の会員で出発した同好会の当時は、手弁当で試合に出かけ、満足な練習用具もコースロープもないありさまでしたが、部昇格に

ともない、何とか競泳を主体にした練習ができるようになりました。活動状況は本校プールを中心にオフシーズンには近くのスイミングスクールプールを利用し、関東大会を目標に、毎日の練習に汗をながしてあります。その結果、県北部大会において、昭和63年総合第4位、翌平成元年第3位、昨年は第2位となり、着実に力をつけてきております。県北制覇も目前にきております。また八月に行なわれます各種大会においても、多くの個人入賞者を出しております。

現在部員15名で活動しています。競泳だけに限らず、水泳活動全般を通じて強い身体と精神を培うことも、水泳部の中心的課題です。このような主旨のもとに行われる夏季校外臨海合宿(式根島・神津島・利島)や冬季スキー合宿(上越)も水泳部の大事な活動となつて定着してきております。これから巾の広い水泳を通じて、生徒ひとりひとりの成長を期待しつつ、今後の水泳部の活躍にご期待下さい。

今後とも同窓の皆様のご指導、ご援助、ご鞭撻の程よろしくお願ひ致します。



埼玉のかおり

親睦旅行(日帰り) に参加して

高校第5回卒業
萩原 泉

私たちのロマンスカーは懐旧談に花を咲かせながら大宮市へ入る。第一の見学場所県立博物館では館長岩田明先生(前児高校長)自らのご案内ご説明をいただく。特別展「南蛮の美術」―異国にあこがれた武将たち―では展示物の豪華さに驚く。当時の人々の異国文化への強い興味、日本文化への影響大を思うと感無量。他に足を止めた展示物もあったが、時間の都合で再来を友と話して車に乗る。

車中、〇〇専属歌手などの登場あり、窓外の風景を楽しみ川越市に入る。川越は武蔵野台地の東北端に位置し、伊勢物語にも登場し、古くから文化の開けた所で江戸時代には「小江戸」と呼ばれる賑いをみせた。城下町の面影をたどるまづ期待の昼食、川越名物芋料理で腹ごしらえ。芋ワインもおいしく頂く。次に喜多院。古木造の春もりを足裏に「家光誕生の間」春日局「化粧の間」に往時の絢爛たる姿をしのぶ。続いて東照宮を暫し五百羅漢の表情豊かな像に暫し時を忘れる。次は市内自由散策。菓子屋横丁で懐かしい駄菓子類に

歓声。川越のシンボル「時の鐘」を見て蔵造りの町並みを歩く。川越城本丸御殿の見学を終り、赤とんぼのメロディーが流れるころ一行は充実感のうちに帰路に着く。

―百聞は一見に如かず―このような小旅行が度々あってもいいのではないかと思った。



新年会

平成3年度 教職員人事異動

(敬称略)

校長 (転出・退職)
教諭 杉田 治正 坂戸高校
持田 道夫 熊谷高校
横山 清 寄居高校

会長 梅沢 仁 俊雄
副会長 井上 悟子 小林 公博
武田 広研 貫井 一夫
根岸 俊一 松本 一夫
幹事 高木 清憲
石井 敏郎 (幹事兼任)
高橋 俊子 坂本 文江
監査役 吉川 幸男 林 喜一
相談役

本 部 役 員 と 理 事

(転入・新任)
校長 島田 道郎 善弘
教諭 中沢 誠 新島 善弘
柳橋 高夫 黒沢 直広
主任 飯島 弘子
教頭(兼) 小柴 清
教諭(兼) 清水 正夫
養護助教諭(兼) 山口千恵子
主事(兼) 根岸 英志
業務主事(兼) 柿沢 八郎

教諭 洲崎 勇 岩槻商業高校
飯島ふみ子 熊谷養護学校
忠平 博克 秀明八代高校
実習助手 鈴木 智美 滑川高校
非常勤講師 冨塚 智子 退職
主任 齊藤 敬子 浅野由美子
教諭(兼) 田中 孝夫 深谷高校
教諭(兼) 多田 茂雄 退職
業務主任(兼) 千島 秀夫 川本高校
主事(兼) 橋本 嘉美 寄居高校

校内理事

高柳 和夫 渋谷 正敏
鈴木 要子 吉田 節子
新井 初枝 志村 孝子
柴崎 督子 塩原 孝子
萩原 泉 内田 美雪
葛西 隆 高橋 正弘
持田 勝男 南 正
茂木 賢 山田マサミ
星野 克己 根岸 義守
秋間喜代子 荒卷 恒好
中村 伸 荒井 一夫
中林 都明 岩崎 勲
新井 洋児 小林八重子
遠藤 秀夫 鈴木 政弘
本藤 正寿 熊倉 清治
出生 勲 新井 一紀
久保佐代子 浅見 葉子
神岡 和年 安齊 彰
飯塚 芳己 増田 民子
堀越 良子 岩上 高男
田島 勇八 須野原 勉
黒沢 洋子 瀬山 尚志
武内 順子 田島 弘行
森 克司 石坂 清
脊山 和教 川上 守之
阪本 知絵 根岸 寛
福島 慎治 新井 隆
小島 勇一 塚本 隆
武田 欽一郎 小倉 正貴
田島 優子 高木 弘之
芳野 勇 松田 吉司
石川 克彦 長谷川志野夫

母校サバイバル作戦

埼玉県立博物館長

岩田

明(元県立児玉高校長)

同窓生の皆さん、お久しぶりでございます。会報七号の紙上講演会で何か喋れ(書け)、との立花広報委員長さんからお誘いを受け、うれしくお受けいたしました。

人には生涯忘れ得ぬ日というものがいく日かあるものです。私にとって昭和六十二年四月十九日は、その一日でした。児玉高校に着任して間もないこの日、すばらしい同窓会総会に出会いました。そこで私は三つのことを申し上げたのです。一つは児玉高校ルネサンス運動の展開を、二つには町技サッカーはじめスポーツの振興を、三つには五年後の創立七十周年を契機に児玉高校の飛躍を、という三点でした。

同窓会では、私のこの三つの提言に対して、深い理解と情熱をもって行動に移していただきました。母校ルネサンス委員会、名簿作成委員会の新設をはじめ、期別役員会報『時の針』全会員配布計画など、他校同窓会にはみられない、ユニークな活動ばかりです。これらはすべて、母校愛から生れた無償の活動なのです。ありがたく、今でも深く感謝しております。

こうした同窓会のご支援を受けて、学校でも児玉高校ルネサンス運動の中核を成す中長期の将来構想の策定に取り組んだのです。ここでは、創立七十周年を中心に前後十年間を見据えた、ソフト・ハード両面からの将来ビジョンが検討されました。また、これと同時に進行のかたちで、PTA・後援会のご協力を得て、県教委への陳情活動を展開いたしました。

昭和六十二年六月二十四日、児玉郡市選出の二人の県議さんを紹介議員として、田中・堀口両P後会長さんともども、県教育長に対し、第二体育館及びセミナーハウスの早期建設の陳情をいたしました。その際併せて、学科転換、コース制の導入についても、校内での検討状況について説明しました。この日の私の日記には、県教育長に対して、次のように説明したと記してあります。

一、本校としては、県の基本方針に基づいて、生徒急減対策やコース制の導入、学科転換を含む特色ある、個性的な学校づくりに努める所存である。
二、そのため、創立七十周年に当

たる五年後の昭和六十七年を中心に前後十年間の将来構想の策定に取り組んでいる。
三、その中核となるのは、ソフト面では

- ① 具体的な急減対策
 - ② さまざまな学科転換、コース制の導入による個性的な学校づくり
 - ③ 国際化・情報化に対応した二十一世紀に生きる人づくり
 - ④ 児玉高校ルネサンス運動の展開
 - ⑤ 多様化した生徒に対処するための「落ちこぼし」と「伸びこぼし」のない学校づくりを図りたい。
- 四、ハード面では、体育科の設置などを検討の視野に入れながら、本日も願ひに上がった第二体育館、セミナーハウスの早期実現を図りたい。
- 五、学校としてもP後同三団体の全面的なご支援を得て、五年後の創立七十周年には、記念館、図書館、部室、体育トレーニングセンター等の建設を検討している。
- 六、学科転換、コース制については、さまざまな教科を考えているが、特に体育科についていえる。
- ① 五万四千坪の校地、二万九千坪の運動場を有し、ハード面の基礎的条件は備えている。県北地域の生涯スポーツの推

進、特色ある学校づくりの拠点になり得る。

② 昭和四十七年、児玉町議会はサッカーを「町技」に指定するなど、地域社会のスポーツに対する基盤はきわめて厚いものがある。

③ サッカー部のインタハイ優勝(四十八年)をはじめ、柔道、バスケット、卓球、野球など優れた実績をもつ。

この陳情ののち、県教育長の学校視察があった。以後さまざまな紆余曲折はあったが、本年、新しい体育館の建設、来春体育コースの設置にいたったわけですが、いま、各高校は厳しいサバイバル競争をしいられています。しかも、この生き残り作戦には、残念ながら特効薬はありません。ではどうするか。この際たいせつなのは、児玉の町に立地する、この高校の役割は何か、という原点に立ち返って、地域社会とともに考え、学ぶ姿勢ではないでしょうか。児玉高校の立地する地域社会のニーズと本校創立の原点に学ぶことが、いまもっとも大切のように思われるのです。学校が、その姿勢を失うことになりましよう。

児玉高校ルネサンスの起爆剤である創立七十周年記念事業の成功と、児玉高校のサバイバルを心から祈念して、この寄稿を終えます。

会員おたより

懸命に生きて

高校第9回卒業

瓦井 美津江(旧姓斉藤)

児玉高校を卒業して三十余年、年を経る毎に懐かしさの募る学生生活である。今は亡き吉田利雄先生の温かく熱心な勧めで医学の道歩んだ。先生の励ましがなかったら現在の私はありえなかったと思う。忘れ様にも忘れられない先生である。その他高山先生、吉本先生、平賀先生等々皆本心に熱心に導いて下さった。中でも三年次に物理を紐解いて下さった戸谷先生は、現在の医師への足がかりを作って下さったと感謝している。

さて私は現在母校群馬大学に勤務する一病理医である。病理とは癌をガンと診断し、死因を追究する学問である。仕事柄「一生」の大切さを毎日実感している。後輩諸君、どうか一生懸命生きて、忘れられない思い出を作ってください。

高校生活で得たもの

高校第19回卒業

芦 沢 吉 一

小中学校は隣接校、生れた場所での生活。そこから小さな一歩を

ふみだした高校生活。校舎、先生、友人、すべてが新鮮に思えた。日がたつにつれ、今までの自分とは何か違うものが生れてきていた。

学級での話し合い、部活動を通して、自分で何かを見つけたい、やってみたいと思ひ、悩み考える生活であったように思う。

それが今の自分にとって何であったのかはまだ分からない。ただ一杯の活動を通して得たものは大きい。

今、何事につけても話し合える友がいる。お金で買えない友がいる。この財産をこれからも大切に、人間として心のわかちあえる関係であり続けたいと思う。

母校への思いとは

高校第19回卒業

関 根 安 男

卒業してから24年間、児玉高校同窓生として、母校のために何をしてきたかという、特には何もしてない私です。そして、その同級生の集まりの時、「自分の子供も児玉高校へ入学させるんだと思っ

て頑張っている人がどれだけいるか？」の言葉に「私はどうだろうか、やはり成績にこだわるのでは」と今も自問自答している状態です。そんな私でも、見ず知らずの人に会っても同じ「児玉高校卒業」と聞くと何となく親しみが湧いて

県展特選入賞

平成3年5月に開催された埼玉県美術展覧会で高校第11回卒業の作美光久さんが、県美術家協会賞(写真の部)を授賞されました。

題 「攻 防」



くること、野球、サッカー等の大会における戦績に一喜一憂することの気持ちは、三年間お世話になった母校への愛着と、これから益々発展することを願う思いがあるからこそ思っています。

学友から生涯の友へ

高校第25回卒業

小 島 勇 一

先日二十年ぶりに母校を訪れた。りっぱな校門がたち大きな杉の木の下にあった自転車置場付近は、広場となり庭園となっていた。昔の面影を探そうと校舎の裏に回ってみた。文化活動(理化部)に明けくれた木造の建物も今はもうなくなっていた。

しかし私の脳裏にはよみがえるものがあつた。

それは良きにつけ悪きにつけ友とのふれあいだった。高校まで三年間一緒に通ったA君、勉強のライバルとして頑張ったB君、答案用紙の交換をしたC君、また校内マラソン大会で抜け道をしたD君等今となってはなつかしい思い出である。今考えてみるとやっ

はいけないことばかりやっていたが・・・。現在でも年に何回か会って酒を飲みながら近況報告をしている。私にとってはかけがえのない生涯の友となっている。

最後に母校児玉高校の繁栄と、同窓生また在校生一人一人のご活躍を願ってやまない。

私の近況

県立高女第9回卒業

森 澄子(旧姓福島)

平成四年には創立七十周年を迎え、母校も益々発展を遂げ心よりお祝い申し上げます。

例年行なわれている四月の総会秋の親睦旅行には、参加させて頂きお世話になっております。今では孫に習字を教えたり、千切絵やNHK学園の短歌講座に入会し短歌を楽しんでおります。

亡き父が二十余年を往き来せし

学校への道なりこの坂道は幼き日母に抱かれしこと偲ぶ母の

形見の和服身に着け

ひっそりと卵を抱きて眠るらし

雛かえる日待つ燕かな

墓掃除終りて空を仰ぎおり

飛行機雲の一すじはしる

降る雨にためらう子供にまっはりて犬は日課の散歩うながす

体力作りの時代

高校第22回卒業

中村 文 男

私が児玉高校に入学した年は、特に印象に残っています。なぜかという、入学式から五日たった四月十七日に雪が降ったからです。まだ木造の校舎でしたので、うす暗い教室の窓から外を見ると、

木々につもった雪が日に照らされてキラキラと光っていたのが思い出されます。

また、高校生活は、自分の体力作りの時代でした。毎日十二kmの道程を自転車通勤していました。その頃の児玉県道はまだ舗装がしてない所があり、車が通ると前が見えないくらい砂ぼこりが立ち、砂利道で走りにくかったのを覚えています。今ふり返ってみると、この毎日の通学が自分の体を作り、今日の自分があるように思える。

OBとしての母校を想つ

高校第25回卒業

阪 本 良 雄

私が卒業したのが昭和48年3月でした。その当時は学生仲間でもまだバンカラ風なところが残っており、良き社会人となるべく、明るく楽しく学んでおりました。テレビドラマの学園物を見て

るとわかるように現在の学生気質と私達の頃では大きな差があります。学生達は一見自由なように見えますが、中身は社会通念をまったく知らない子供です。家庭でのしつけの悪さと教師の質の低下などで彼らは世の中へとけこめないうえです。母校に望むことは、子供達が卒業して進学、就職、いざれにしましても良き大人となりますよう指導して下さい。児玉高校

のOBであるということに誇りをもって生きていきますよう教師の皆様、厚い心で教育して下さい。



総 会

時の流れ

高校第40回卒業

堀 越 亜希子

時の流れとは早いもので、卒業して三年がたつてしまいました。まだつい最近卒業したようでしたが、同級生の中にも結婚した人などがおり、三年という月日を感じさせられます。

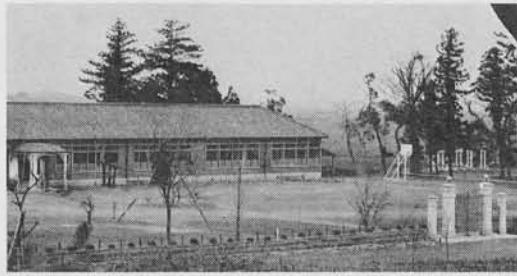
私は卒業してすぐ社会に入り、

厳しい現実とぶつかりながらも沢山のことを学びました。皆さんもそれぞれの置かれた立場の中で、活躍していることと思います。でも少し寂しいことに、環境の変化で会えなくなってしまう人もずいぶんいるのです。そんな意味でも同窓会は、友達に会える機会がある一つの窓口だと思っております。是非これからの発展を期待し、皆さんに会える日を楽しみにしております。

委員会 だより

同窓会では会の事業の企画及び実施にあたるため理事がそれぞれ分担して各委員会を受け持っています。現在 ○名簿作成(記念事業) ○育英 ○親睦活動 ○広報 ○組織 ○母校ルネサンスの6委員会があります。今回は名簿作成(記念事業)委員会を紹介いたします。名簿作成(記念事業)委員会は、『会員名簿の作成にあたる』委員会として活動しています。創立七十周年記念事業の一環として、平成3年4月に会員名簿を発行いたしました。住所調査や広告等皆様にご協力をいただきましたことをご感謝申し上げます。引き続き記念事業の実施について

て、学校・PTA・後援会・同窓会の関係団体により、同窓会館等の建設にむけて協議中です。又、記念誌の発行や母校応援歌制作等も検討しています。皆様のご意見もご希望をいただき次年度の総会に提案できるように進めて行きますので、今後共ご協力下さるようお願いいたします。



組合立女学校校舎

▲名簿作成(記念事業)

委員プロフィール

副会長 根岸 俊一(高校第7回)
 児玉町秋山在住 自営 農業
 (一言) 来年度に迎える母校七〇周年記念として、すでに会員名簿

の発行も終了、今後は記念事業を成功させるよう努力しております。皆様方のご協力をお願い致します。

委員長 藤森 武(高校第20回)

本庄市 木在 住 自営 藤森商店(株)

(一言) 過去十数年いろいろな委員会に、オセワになってきました。が、こんかいの委員会が私にとって一番大変です。みな様ご協力を宜しく!

副委員長 南 正(高校第8回)

本庄市 若泉 在住 自営 大関運輸(株)

(一言) 創立七十周年を迎える大切なとき、記念事業の成功にむけて一生けんめい努力いたします。皆様方のご協力をお願い申し上げます。

幹事 木村 葉子(高校第18回)

神川町 八日市 在住 神川町商工会勤務

(一言) 創立七〇周年を迎えるに際し、同窓会役員の仲間入りをさせて頂きました。母校の為、後輩の為に少しでもお役に立てれば、よろしくお願ひいたします。

委員 荒巻 恒好(高校第11回)

児玉町 児玉 在住 関東郵政局前橋職域センター勤務

(一言) 同窓会、クラス会等開催されましたら、現住所名簿を必ず作成し、児玉高校宛にお知らせ下さい。よろしくお願ひ申し上げます。

す。

委員 根岸 寛(高校第24回)

神川町 貫井 在住 神川町役場勤務

(一言) 母校の活性化に向けて多くの皆様が努力されているところですが、特に、平成四年度から開設される体育コースに児玉高校の大きな特色が出せるのではないかと期待しています。私自身も、少しでもお役に立てるように頑張りたいと思います。

委員 遠藤 秀夫(高校第16回)

児玉町 入浅見 在住 新神戸電機(株)勤務

(一言) 今回事務を指名に依りお手伝いさせて頂く事に成りました。勤務がら参加が思う様に出来ませんが何か少しでも力になれる様、頑張るつもりですのでよろしく。

委員 新井 隆(高校第24回)

児玉町 秋山 在住 児玉町役場勤務

(一言) 高校を卒業して、二十年になろうとしています。お世話になった母校で同窓会を通して活動ができることを大変喜んでいますが、何もまだわかりませんが、せいっぱいがんばりますので、宜しくお願ひ致します。

委員 根岸 義守(高校第9回)

児玉町 八幡山 在住 聖母病院勤務

(一言) 新役員に推薦されました

ので、我が母校同窓会がより良くなるため頑張りますので、色々のご意見がありましたらご連絡下さい。おまちしています。

委員 中村 伸(高校第11回)

本庄市 中央 在住 社会調査研究所勤務

(一言) 中学・高校・大学とある内で高校時代の同窓会が強力で印象強く感じている。この力を結集して、今ひとたびの栄光を願っている今日この頃です。

委員 岩崎 勲(高校第12回)

児玉町 児玉 在住 自営 甘楽亭

(一言) 今回事務という大役を受けさせて頂いた、微力ではありますが母校発展のために努力させていただきます。

委員 熊倉 清治(高校第17回)

岡部町 沓掛 在住 自営 松角建設(株)

(一言) 今回事務の推薦を受け、母校や同窓会のため、一所けんめい頑張りますのでよろしくお願ひいたします。

委員 武内 順子(高校第22回)

児玉町 秋山 在住 児玉町役場勤務

(一言) 母校を卒業して二十一年、今年四月長女が児玉高校へ入学し、母校を身近に感じています。児玉高校の卒業であることに誇りをもって、母校の活性化の為微力ながら努力を重ねて行きたいと思ひます。

母校に 体育コース設置



平成四年度から母校に体育コースが設置されます。その概略を紹介いたします。同窓会員の皆様もご承知のとおり最近の母校に活気が感じられませんか。中学卒業生が激減する中でかつての母校の活気を取り戻したいという切なる願いが校T A・後援会や母校を取り巻く地

域など各方面から寄せられていました。そこで、母校は部活動が盛んで運動部の多くが各種大会で立派な成績を収めている実績の中で体育コース設置を母校活性化の目玉とし、母校創立七十周年を節目に活性化を目指しています。

「体育コースとは」
今までも普通科の中に古典コースとか代数コースとかありました。それは「類型」と言われるもので、クラスでまとめて文系や理系の教科をやや多めにしているものです。だからコースと言って、その学校としてそう言っているだけです。今度設置の「体育コース」は県の教育委員会で認可したもので多少は予算もつき、有利になっている公式のものです。

「体育科との違いは」
体育科は体育に関する科目が二十五単位以上なければならぬのに体育コースは体育科目が二十から二十五単位でよいのです。つまり体育科は体育科目が多く、体育コースはそれほど多くありません。体育科はより専門的ですが、体育コースには体育コースの良さがあ

ります。体育科は昔からある農業科・工業科・商業科などと同格の専門学科で普通科とも同格と言えます。体育コースはあくまでも普通科の一つのコースで普通科の特色ある学び方です。

「県立で体育科、体育コースの設置校は」
体育科は大宮東、騎西、大井の三校。体育コースは平成三年度に八潮、平成四年度に児玉と飯能南の計三校です。これからも少しずつ増えるでしょうが、施設・設備の問題もありそんなに増やせないかもしれません。

「体育コースの学習内容は」
専門科目は、体育理論、スポーツⅠ(個人的スポーツ)、スポーツⅡ(球技)、スポーツⅢ(格技)、ダンス、レクリエーション、野外活動です。各教科、科目の履習単位数は、体育コース教育課程表にあるとおりです。

「卒業後の進路は」
予想と期待で言うしかありませんが、まず体育系の大学や文科系の大学進学があります。児玉高校ではこれまでも体育系への進学者は何人もいるので、それをもっと増やしていけると思います。次は専門を生かした就職、スポーツ能力を買われて、あるいはスポーツ指導や救急面で有利な就職があるでしょう。またあくまでも普通科なのだから一般会社への普通の就職も大いに結構でしょう。きびき

体育コース教育課程表

科目	普通科										専門			野外活動 レクリエーション						
	国語	現代文	古文	社会	世界史	数学	理科	生物	英語	英語	音楽	美術	書道		体育	家庭	体育理論	スポーツⅠ	スポーツⅡ	スポーツⅢ
1年	5			4		4	4		5					男4 女2	1	2				(1)
2年		4			4	3	4		5					男4 女2	1	2	2			(1)
3年			4	3	4		4		3	2				3			2×3			(1)

びした行動力、体力、粘り強さ、連帯心どれをとっても会社で求め

る人物そのままの体育コースの卒業生は企業から引っ張りだこになるのではないかと思います。

「選抜は」

推薦(一月下旬)と一般入学試験(二月下旬)の二回実施します。推薦入学は募集人員二クラス九十人のうち、半数の四十五人になると思います。一般入学試験では第二希望として普通コースを併願できます。

体育コースを成功させるため、ぜひ同窓会員の皆様方のお力をお貸し下さい。平成四年二月末には今までの一、五倍の新体育館も完成します。運動することが好きで、運動部の活動と勉強を両立させ、体育系や文科系の大学に進学を希望する生徒を母校に送って下さい。卒業後の進路についてもご協力願えれば幸いです。体育コース成功をバネに活力あつた昔の母校を皆で再現させましょう。よろしくお願ひ致します。

クラス会 便り



◎高女第10回卒業生、2年9月30日 於美里町福久屋 36名出席
母校にて記念撮影。



おり紙で作った長崎平和記念像

◎高校第19回卒業生1年7組、3年3月24日 於寄居町寄居かんばん保養センター 14名出席

◎高女第8回卒業生、3年4月25日 於猿ヶ京温泉猿ヶ京ホテル 18名出席

◎高女第15回卒業生、3年5月19日 於本庄埼玉ランドホテル 46名出席
茂木光男先生、新井いと子先生、木村ふじ先生、狩野フミ先生も参加されました。

◎高校第23回卒業生、3年8月11日 於本庄埼玉ランドホテル 136名出席 新井(木村)行雄先生、五十嵐舜夫先生、落合明弘先生、久米光弘先生、小谷野歳一先生、田中孝夫先生、町田勝持先生、吉田 稔先生も参加されました。

◎高校第13回卒業生、3年8月14日 於本庄埼玉ランドホテル 108名出席
秋山芳雄先生、新井初枝先生、石黒希代先生、小島英二先生、小林捷利先生、小谷野歳一先生、町田勝持先生、横内 斌先生も参加されました。

母校の発展に胸おどらせ

(創立70周年を迎える今)

母校活性化のため、会員各位に同窓会報「時の針」第六号を送付する際、紙面にてお願いし、更に返信ハガキを同封し、母校活性化に関するご意見・提案等をお願いしたところ、多くの会員皆様より貴重なご意見等をお寄せいただきました。会報紙面をお借りして、お礼申し上げます。又、同窓会名称のアンケートについても、併せてお願いしましたが、反響が少なく、意見も種々別れているため、「時間をかけて慎重に検討し、選考していく」ということになりました。

テレホンカードの頒布については、第二回の発行として、二、〇〇部作成し、会員皆様のご協力により、順調に頒布しているところです。申すまでもなく、「物を

売り、利益を」ということではなく「同窓会員の掘り起こしと、母校への関心を深めていただく」という趣旨からの頒布ですので、ご理解とご協力をいただきたいと思えます。尚、関係役員さんには、領布にあたり心労をわずらわさせ、ご協力いただいておりますこと厚くお礼申し上げます。

さて、ご承知のとおり、今年も夏季大会等において、運動部関係の活躍により、上位入賞を果たし、新聞紙上を賑わせ、同窓会員(卒業生)として、胸躍らせていたのではないでしようか。母校の活性化にむけて、更にご活躍を、お祈りいたします。

ここで、母校活性化のために、お寄せいただいた意見・提案をご紹介します。

- (昭和23年卒業生)
- 1、クラブ活動に特色をもたせる
 - 2、実力があり、情熱をもち、持続できる教師・指導者の確保
 - 3、学校を地域に開放し、交流をすすめる。

(昭和51年卒業生)

正直言って児玉高校同窓会から今回のような機関紙等が届くとは夢にも思っていませんでした。もっぱら大学のほうばかりでした。そんな中でたいへん懐かしく拝見しました。会報のスポンサーに同期の名前を発見し、驚いたりもしています。ありがとうございます。みんな一万六千余名の会員もそう感じていると思います。今後、ますますのご発展をお祈りします。自分の母校です。愛さないうけがありません。”

(昭和20年卒業生)

母校創立70周年を迎えるに当たり、同窓会長様はじめ、役員の皆様方に心から感謝申し上げます。会報を拝見し、スポーツに福祉に国際親善にとあらゆる分野に活躍している様子を伺い、同窓生として嬉しく存じております。が、一方で少々学力が低下しているのではないかと憂いの気持ちもいっぱいでございます。農山村に囲まれた学校だから仕方ないかも知れませんが、もう少し頑張ってください。

そして制服にプライドを持てる学校にしてください。高校に進学するのなら児玉高校を目指せ、先輩を引きつけるような魅力のある学校になっていただきたい。『学力のレベルアップ』このことが同窓生としての念願でございます。母校の益々のご発展を祈念申し上げます。



児玉町水道塔

(昭和28年卒業生)

いろいろとお骨折り、ご苦労様でございます。今更、後輩達に、学力の面で期待しても無理でしょうから、せめてスポーツの面で頑張ってくださいと切望しています。

サッカーの高校総体優勝はもう無理なのでしょうか……？

(昭和41年卒業生)

「時の針」ありがとうございます。大変うれしく思います。毎日児玉高校の生徒を見ますが、いつも思うことは、私達の頃より服装が『みだれている』ということです。それから同窓会が一丸となって応援できる部活がなにかあるといいですね。『昔は良かったが今は・・・』などと言われない学校であってください。

(昭和38年卒業生)

私は在校中、部活動・生徒会活動に時間を費やし、本当の意味での勉強に打ち込めなかったことに悔いて、卒業以来、何かにつけて「学ぶ」ということを続けています。生徒会での経験も諸活動に役立っていますが、母校の先生がもっと勉強することに力を貸してくれたらよかったです。先生、教える方のうまい先生が、生徒にもっときびしく勉強させていくことが、一番大切なことだと思います。又、受験の情報や個人では集めにくい地方の不利をカバーするための施策、外国人を英語の教師に迎える(会話だけでも、他の学校よりマスターさせる)、部活動のコーチも同窓会が援助して大学で活躍した選手を招く、中学生が学

校を選ぶ大事な条件は制服です。生徒のおしゃれは止めようもない、ステキな制服にすることによって多数の受験者がでる。学校中の先生にやる気があって思いついたことをやることです。同窓会が母校の活性化のために動き出されたことに感謝しています。

以上のとおりですが、ご紹介したのは紙面の都合上一部のご意見等です。
* * *
お読みになっていただければおわかりのとおり、第6号『時の針』は、全会員にお届けしましたが、その前は役員さんまででした。その為いつも同じ会員の手元だけ、それぞれの卒業年度によっては、一回の同窓会もなく突然『時の針』が送付されてきたので、驚き・嬉しさ・懐かしさのようです。反面、学校・同窓会に対しての叱咤激励とも思えます。
しかし、同じ児玉高校の同窓生として、それぞれの立場やお考えで、母校の発展に胸おどらせていることがおわかりいただけると思います。
又、お寄せいただいたアンケートで、ご紹介できなかった会員にはお詫び申し上げます。今後も機会あるごとく『時の針』の紙面にてご紹介していきますので協力をお願いします。
母校ルネサンス委員会

講演会報告

母校OBによる講演会が在校生への情操教育と先輩諸兄の激励を主旨として、各年に亘り開催され数えて五回目が昨秋(11/8)柔道家で現在新日本製鉄(株)畑製鉄所に勤務されている岡泉淳氏(第37回卒)を迎えて盛大に開催された。

九五kgと云う立派な身体で会場へ通され、全生徒の見守る中、やや紅潮気味?汗を拭き乍ら丹念に一言一言囁めるように、柔道との出会い、金沢道場、藤岡、神川の各柔道教室において本格的に始める。やがて神中に進むが、当時柔道部がなく野球部に籍をおき、三年生の夏休みより児玉高校の高柳先生の指導を受け、埼玉東スポーツ少年団大会に優勝(S56年)以下紙面の都合で、高校時代、筑波大学在学中の数々の輝かしい戦績等々については割愛させていただきますこととして、現在社会人として勤務のかたわら練習に大会にと、明け暮れている岡泉さん、これまでの道程は決して順風満帆ではなかった。

格闘競技につきものの、怪我に泣かされ一年間ものブランクに悩み苦しむ、岐路に立たされたことが、逆に精神的な修業として、心

身面で大きく成長できたと思え、大に訴え締めくくったのが印象的であった。

いつも自分に言い聞かせていたのは中途半端なつもりでこの道を選んだのではない、男が志を立てたからにはとことんやるだけだ。幸い良き師・良き先輩・良き同僚に恵まれ、そして何にも増して、良き理解者である父親の存在の大きいことを挙げねばならない。

岡泉さんのこれからのスポーツ人生を益々精進され名声を博していただき度い、と同時に在校生諸君も奮起し、今回の講演を有意義に受けとめ、高校生活の一助としていただければ幸いである。



催しものお知らせ

◎ 新年会

とき 平成4年2月1日(土)
午後3時より
ところ 本庄市・駅南口徒歩3分
埼玉ランドホテル
かいひ 5,000円
※ 申込/切 4年1月20日

◎ 総会 (平成4年度)

とき 平成4年4月26日(日)
午後3時より
ところ 母校・視聴覚教室
総会終了後『懇親会』を
母校の食堂にて(かいひ
2,000円)で行いま
す。
※ 申込/切 4年3月20日

◎ 役員会

(支部役員及期別役員)
とき 平成4年4月26日(日)
午後2時より
ところ 母校・視聴覚教室
※ 申込/切 4年3月20日

(おわび)

本年度は『観劇会』を9月29日

に実施したため、会報によるご案内が出来ませんでした。なお『同窓会講演会』も母校体育館改築工事のため中止いたしました。
▲催しもの申込及連絡先▼

石井敏郎(事務局) 児玉高校内
☎0495(72) 1591



編集後記

大勢の皆様にお助けられながら同窓会報「時の針」第七号を何とか発行することができました。ご協力をいただいた方々に心より感謝申し上げます。

会報を全会員にお届けするのもこれで二回目となりました。親しまれる会報づくりを目指して努力しておりますが、皆様のご協力なくして良い会報はできません。今後ともご協力をお願いいたします。我が母校も、創立七〇周年を機に、大きく変わろうとしています。変わる内容も、勢いも会員各位のご協力によるところは大きなものがあります。

この会報も、大きく変わる母校の活性化のために、会員の皆様の手を結集する一助になればと考えます。